



小城市立歴史資料館 * 中林梧竹記念館だより

「おぎを掘るXIV」を開催します

今年の「おぎを掘る」は、“石”にスポットを当てます。石はヒトにとって最も身近な道具の1つです。その関わりは古く約250万年前以上までさかのぼるといわれます。

小城市内で最も古く道具として用いられたことが確認できるのは、約2万2千年前です。市内で採れる石を使って狩猟具や生活用の石器を作りました。

その後も石の種類や道具の形を作り変えながら、現在でも石は建築部材をはじめ、さまざまなものに

使われています。

今回の展示会では市内の発掘調査で出土した石器や石造物にスポットを当て、石から見えてくる小城市の歴史を紹介します。

◆期間 9月5日(土)～10月18日(日)

◆休館日 毎週月曜日・祝日・
9月23日(水)

◆会場 歴史資料館 企画展示室

◆入場料 無料



▲地面にあらわになり採取された旧石器



▲出土した石塔の復元状況



▲小城藩邸への入口となっている石橋

おぎの歴史探検隊

あまやま あまてらすおおかみ 天山は「天照大神」に由来するのでは〈その2〉

実は、「天照大神」に由来すると明記した資料はありません。しかし、類推できる事柄がいくつか考えられます。「天山」の由来を調べるうえで「天山社(天山神社)」の歴史を考えなければなりません、あまりにも多くの説があって混乱してしまいます。

「天山社」の創建については、現在公にされているのは「大宝2(702)年、時の文武天皇の口宣(指示)を受けた参議 藤原康弘(安広)が10月15日天山の池の中に島を築き、蓬萊島と名付け、祠を建てて天山神の上宮と定め、下宮を靈貴山(別名 烏帽子岳)に建立した。」とあります。この祭神が「宗像三女神、つまり多紀理毘売命、市杵島姫命、多岐都比売命」です。(この下宮の部分は疑念があります)

ここでは下宮を「靈貴山」に建立とありますが、

別の資料から上宮の区域を含め一帯を「靈貴山」つまり佐賀平野から見て一番左の山が「靈貴山」になります。

「靈貴山」とは、天照大神の別名「大日靈貴神」からとられたものと考えられ、宗像三女神より前に「天照大神」が祀られたと推定されます。実は上宮の近くに大新宮(祭神・天照大神)が祭られているのですが、それがいつからかという、いま最も古い資料では、「持統天皇のとき対馬より夷族侵攻の時」(または、「対馬に異族が異風を広めんと欲す」とも)、勅命により参議 藤原康弘が下向、それが朱鳥8(694)年のこととされます。(続)

小城郷土史研究会/著



▲大神宮碑

◆開館時間 9時～17時 ◆休館日 毎週月曜日・祝日・9月23日(水)

【問合せ・申込み】歴史資料館 文化課(桜城館2階) 担当 下川・永田 ☎71・1132

小城市ホームページから 梧竹・歴史資料館・文化財 検索